

分野（３）

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

②成人を対象とした気管支喘息患者に対する効果的な保健指導の実践に関する調査研究

研 究 課 題 名：『喘息死ゼロ』実現に向けた、薬剤師吸入指導の実態調査と
吸入指導セミナーの効果検討に関する調査研究

調査研究代表者氏名：大 林 浩 幸

評価コメント

○研究費の額と研究期間を考慮するとかなりの成果が得られていると考える。
○薬剤師への系統的アプローチはこれまでに研究が少なく今回の成績はそれが地域のチーム医療の形成に寄与することを明らかにした。今後の介入成績に興味が持たれる。
○喘息死ゼロ実現には吸入ステロイドの処方はもちろんであるが、正しい吸入技術の指導が必須である。そこで臨床に携わる医師の指導は時間的にも制約を受けることが多く、直接薬剤を手渡す薬剤師の指導に依存せざるを得ない場合が多い。そこで、現在薬剤師による指導がどの程度行われているかを調査し、薬剤師向けのセミナーを開催し、一定の効果が得られたという報告であり、吸入ステロイドの指導に薬剤師の役割に注目したことは、ともすれば気づかないコメディカルの役割をクローズアップした報告として意義がある。
○吸入指導が全国的な広がりになればと思う。
○現在の医療制度の下では、医師やナースが患者に吸入方法を説明する時間はなかなか取れないのが現状である。したがって、薬剤師にこの役割を負担してもらうことはもっとも現実的で確実な方法である。また、薬剤師の教育には、医師以外に製薬会社の担当者にも協力を求めるのが合理的だと思う。研究目的の対象が薬剤師となっているが、最終的に対象とすべきは患者である。要は、患者が正しく吸入を行うことであって、患者が正しい技術を習得したか否かを調べるのが大切である。
○セミナーのみでなく、吸入方法を解説したパンフレットも作製して、薬剤師と患者に渡した方が良い。患者には繰り返し説明をすることが大切である。吸入セミナーや薬剤師による説明などが、実際に効果があったか否かを評価することが大切である。
○今後、実際に吸入指導を行う上で、セミナーが有用であったかを評価する必要があるだろう。
○予算にもあまり恵まれずに、地域で取り組んでいるこのような事業に有効に研究費が生かされるのは望ましい。これらの地域から得られたエビデンスが、モデル事業となり、良いものは全国的な取組につながると良いが、同時に医師と薬剤師の役割分担も議論できていると良いと思われる。また、学童の場合は薬剤師の他に、養護教諭の協力も必要となると思われる。